

# 会議録

令和5年10月18日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和5年度第4回定例会
開催日時	令和5年8月16日(水) 18時30分から20時00分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、荒井茂、小池教之、高井正、下坂小百合、石川健、青木美紀子、ギログリー江美、城石雅行、松本静、荒井容子 事務局：福所館長、市川事業係長(柳沢)、山本分館長(田無)、國府方館長補佐(芝久保分館長)、一之瀬分館長(谷戸)、長谷部分館長(保谷駅前)、星野事業係主査
欠席者	高橋浩一、辻康一
議題	1 審議事項 (1) 令和5年度第2回定例会会議録(案)について(資料1) (2) 令和5年度第3回定例会会議録(案)について 2 主催事業について (1) 令和5年度公民館主催事業報告について(資料2) (2) 令和5年度公民館主催事業計画について(資料3) 3 報告事項 (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 西東京市教育計画策定懇談会報告 (4) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 4 事務連絡及び情報交換 (1) 令和5年度第1回利用者懇談会について (2) 公運審紹介紙について (3) 令和5年度第5回定例会の開催について (4) その他
会議資料の名称	【配布資料】 資料1 令和5年度第2回定例会会議録(案) 資料2 令和5年度公民館主催事業報告書 資料3 令和5年度公民館主催事業計画書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(3名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	<p><b>1 審議事項</b></p> <p>(1) 令和5年度第2回定例会会議録(案)について(資料1) ●令和4年度第10回定例会会議録(案)について承認</p> <p>(2) 令和5年度第3回定例会会議録(案)について ●令和5年度第3回定例会会議録(案)については、各自内容を確認し、1週間以内をめぐりに修正意見を事務局に送ることとする。</p> <p><b>2 主催事業について</b></p> <p>(1) 令和5年度公民館主催事業報告書について(資料2) ○A委員 高齢者の課題を考える講座「人生100年時代いくつになっても安心して暮らすために」(芝久保)について、89歳の方が参加していることは素晴らしいと思った。 ○B委員</p>

6月開催の第2回定例会で報告された「地域づくり未来大学～地域課題を捉え、まちの豊かさを考える第一歩～」(柳沢)でも、安心感を覚えたといった趣旨の感想があったが、高齢者の課題を考える講座(芝久保)の報告書にも、高齢で長く地域に住まわれている方の「安心な居場所がここにあった」という感想が紹介されている。デイサービスや高齢者向けの施設はあるが、学びの場に行きたいけれど、年齢も高くなり目も不自由になってきたからとひいていたところ、公民館を安心な居場所として感じていただけたことは、良い企画であったと思う。

創作講座「五感でアート」を楽しみながら脳を活性化～農&美術で IkiIki ライフ」(芝久保)について、自分で地域の畑で野菜を採取して、それを絵に描くという、地域の農家の方の協力を得た取組がされ、「地域とともに」という方針に沿った事業。講座終了後、自主サークルが発足しているが、ぜひ絵を描くことにとどまらず、地域と密接な関係を持ちながら続けていっていただきたい。

○A委員

創作講座(芝久保)について、農と美術という点がユニークで面白いと思った。

サロンコンサート「ピアノトリオで巡る音楽の世界」(芝久保)について、子どもたちが多く参加しているが、身近な公民館で生演奏を聴くことができ、良い企画だと思う。

○C委員

創作講座(芝久保)と高齢者の課題を考える講座(芝久保)について、参加者の年齢層が60代、70代、80代とあるが、男女比を教えてください。

○分館長(芝久保)

創作講座(芝久保)、高齢者の課題を考える講座(芝久保)の男女比は、ともに3対7で、女性が多く参加されている。

○C委員

先回の定例会で報告されたライフデザイン講座「仕事なんか生きがいにするな～生きる意味を再び考える～」(柳沢)では、就労世代の比較的若い男性が参加していた。男性は定年後、家に引きこもってしまう可能性があるため、中高年やシルバー等をイメージし、世代を超えて男性が参加できるような状況をつくっていただきたい。

## (2) 令和5年度公民館主催事業計画について(資料3)

○A委員

「みんなおいでよ 芝久保交流会」(芝久保)について、高齢者の課題を考えるという枠の中で、企画されていると考えればよいのか。

高齢者が常時行くことができる場をつくる事業は大事だが、西東京市では高齢者施設等、他の施設が既にそういった事業を行っていて、それとは異なる内容の事業を公民館が行うのか。それとも、公民館が率先して、これから高齢者が常時行くような事業を行うのか。そこを議論する必要がある。公民館事業として、どういうことが必要なのか。福祉施設と同じなのか、異なるのか。高齢のため自分たちで運営することはできないが、集まる場があるのは幸せということを支えることは意味があると思うが、公民館事業として、どう行っていくのか。高齢者が高齢者自身にかかわる課題を考える。例えば、自分たちが利用する福祉施設の課題を考えるというような事業などを、公民館の事業として企画していてもよいのではないのか。

○B委員

A委員から、福祉関係の取り組みとは異なる、公民館で行う取り組みの特色や今後の方向性について質問が出されたが…。

○分館長(芝久保)

「みんなおいでよ 芝久保交流会」(芝久保)について。6～7月に実施した高齢者の課題を考える講座受講者から、集まって交流する場、話し合う場の継続を希望する声が多かった。それを踏まえて、本事業を行うことになった。福祉施設との違いについてだが、現在、西東京市では、高齢者支援課の事業として地域包括支援センターが公民館を会場として、高齢者を対象に認知症カフェ等を行っている。本事業は高齢者のみを対象とせず、だれでも集える公民館の特徴を活かして、幅広い世代が参加できる場としていきたいと考えている。とはいえ、高齢者対象なので、地域包括支援センターにも協力をあおぐ予定。交流会の内容や運営について

は参加者が話し合って行っていく方向で検討している。

○A委員

月に1回程度の開催となっているが、平日に行われるのか。

○分館長(芝久保)

詳細については、今後話し合いで決める予定。

○公民館長

公民館は、社会教育機関として多世代交流の場を設けているが、福祉との連携も大切だと思う。様々な事業を通して、地域包括支援センターや子育て支援課等につながっていない方をつなげていくことも公民館の大事な役割であると考えている。高齢者福祉の施策として、西東京市は、認知症カフェやフレイル予防などに力を入れているが、その会場として公民館も利用されている。今後、どの公民館でも多世代交流が課題になっていくと考えている。

○A委員

公民館長の説明で、福祉関係の事業で公民館が利用されていることがわかった。

高齢者の課題を考える講座(芝久保)では、認知症カフェ等の福祉関係の場とは異なる魅力がある場として、集まる場があるといいねと話されていたのだと思う。

公民館職員の能力が求められると思うが、高齢者が参加しやすいだけでなく、いろいろな世代も参加しやすいように運営することで、高齢者が生き活きと活動できると思う。集まる場がきっかけとなって、発展していくと面白いと思う。

○D委員

私は、落語同好会で活動しているが、発表の機会として市内の高齢者施設を訪問し始めたが、回を重ねるにつれ、地域のみなさんやご高齢の方が集う場で落語が役に立っていると感じるようになり、うれしく思っている。

○E委員

今回、2つの防災講座の事業計画書が提出されている。

中学生が企画する小学生防災講座(谷戸)は、小学生を対象として、講師もいるが、ボランティアの中学生、高校生が中心になって進めていく講座で、小学生が自分自身のこととして、地震や風水害のことを考える大切な経験ができると思う。公民館は多世代をつなげていくことができる場所と感じた。今後、こういう企画を続けてほしい。

防災講座「地震国日本を生き抜くために～他人事ではありません、今できることがあるはずです～」(田無)は、段ボールベット等を作成したり、消防署や警察署の方を講師に迎えてAED応急救護訓練等に参加したり、日本の過去の歴史上の震災についても学んだり、様々な角度から防災について考える。

どちらの事業も、それぞれ特色があり、とてもよい企画だと思った。

○C委員

防災講座(田無)の定員は、第1回、第2回は20人、第3回は30人となっている。全3回連続の講座ではなく、1回ごとに参加する講座なのか。定員の違いは部屋の大きさ等によるものなのか。

中学生が企画する小学生防災講座(谷戸)について、昨年度からの継続の事業だが、公民館にとって若い世代が取り組むことは、とても大事だと思う。今回は講座を2回実施し、最後は、その振り返りを行って発表するというとても良い内容となっている。

既に5回実施している企画会議に、講師がファシリテーターとして継続的にかかわっているが、謝礼はどうなっているのか。市民活動にかかわる若い世代の生活保障もとても大事なので、伺いたい。

○分館長(田無)

防災講座(田無)は、全3回参加していただくことを基本としているが、第3回の講師はテレビなどで地震解説をしている著名な方なので、第3回目だけの受講も受け付けることとし、定員を少し増やしている。

○C委員

全3回連続して参加する方を優先しているのか。どのように広報するのか。

○分館長(田無)

全3回受講する方を優先としている。

○分館長(谷戸)

中学生が企画する小学生防災講座(谷戸)の講師謝礼については、講座の回数分の謝金をお支払いしている。

○C委員

企画会議には支払われていないということによいか。

○分館長(谷戸)

企画会議に謝礼はお支払いしていない。

○F委員

小学生親子夕方講座「将棋が好きな小学生あつまれ♪～親子で将棋をプロから楽しく学びます～」(田無)について、子どもたちに人気のある将棋の講座を夕方の時間を活用して実施していただき、ありがたい。

社会問題講座「子どもの居場所づくりから見えてきた、子どもと共に歩むということ」(保谷駅前)について、講座対象者がわかりにくい。継続して講座の企画・運営にかかわっている人たちを対象とするのか、現在、子どもの不登校や引きこもりで悩んでいる保護者も対象とするのか、少しわかりづらい。1回目は、我が子のことで悩む保護者が聞きたいと思う内容だが、2回目以降は、実際に活動している人たちが、互いに情報交換をしたり、学びあったりする。全4回を通した募集内容となっているが、各回で申し込みたいと思う方がいると思う。ひばりが丘公民館で開催される「不登校情報ネットワーク ハートライン西東京」は、当事者や保護者のネットワークづくりに取り組んでいるので、この講座の中でも情報提供していただきたい。

○分館長(保谷駅前)

社会問題講座(保谷駅前)について。様々な方に参加しても、講師と協力して多様な対応を行い、子どもの不登校や引きこもりで悩んでいる新しい参加者を取り残さないようにしたい。

○F委員

単発の参加も可能か。

○分館長(保谷駅前)

1回のみでの参加も可能。参加に関しては、不登校や引きこもりの当事者の方が、来たいときに来てもらうなど柔軟に対応している。

○F委員

地域課題を考える講座「ほくっとネットの誕生と北東部地域の未来」(保谷駅前)について、「ほくっとネット」は協働コミュニティ課の施策で、様々な課題に取り組もうと動き始めている。「ほくっとネット」の誕生と北東部地域の未来のことで取り上げる事業を、「ほくっとネット」と共催ではなく公民館単独で主催事業として実施する意図は何か。誰を対象としているのか。

○分館長(保谷駅前)

地域のつながりを形成するということから、「ほくっとネット」の会議には保谷駅前公民館分館長も出席している。

利用者懇談会で「ほくっとネット」を取り上げるのは、公民館も、今後、地域の中で一緒に色々な活動をもっと広く考えていこうと考えたから。利用者懇談会2時間のうち、1時間半は、地域のことについて話し合いの場が持てるのではないかと考えた。

○事業係長

地域課題を考える講座(保谷駅前)の開始前に利用者懇談会が行われ、懇談会参加者が主な対象者となっている。時間がある方は残って参加していただき、ワールドカフェという方法で「ほくっとネット」メンバーと公民館利用者が北東部地域の課題について話し合うという内容。

○公民館長

「ほくっとネット」は、北町、栄町、ひばりが丘北などの公民館の無いエリアを対象地域に含んでいる。公民館は、今後、「ほくっとネット」との連携によるアウトリーチ活動を考えていきたい。

○F委員

趣旨はわかった。そうであれば、事業名を「利用者懇談会から考える“ほくっとネット”の北東部地域の未来」や「利用者懇談会后に“ほくっとネット”を考える」など、利用者懇談会と一緒に企画したことが明確にした方がわかりやすいと思う。

現在、令和4年度公民館事業評価二次評価の検討を行っているが、その中で地域協力ネットワークとの連携を提案させていただいている。本事業は、そのよい見本になるのではないか。

○A委員

利用者懇談会の後、時間のある方を対象として地域課題を取り上げるというのは、誘導的に感じる。別日に、単独の講座として実施するとスッキリするし、参加者も広く関心がある方を募集できるのではないか。地域課題について誘導的に参加させる感じで、よくないと思う。

○事業係長

利用者懇談会は公民館利用団体が集まる貴重な機会なので、利用者懇談会終了後に設定した。

○分館長(保谷駅前)

利用者懇談会で地域課題について話す中で、「ほくっとネット」の発足について報告する予定。

○F委員

以前から、保谷駅前公民館の利用者懇談会は話し合いの時間が短いと思う。利用者懇談会に参加した方の公民館に対する意見や要望等を聞く時間をもっと設けることが必要ではないか。

○A委員

逆に、公民館から「ほくっとネット」に、公民館のない西武池袋線の北側の地域に学ぶ場、出会いの場をつくる必要があるということを提起して、地域課題として考えてもらってはどうか。そのスタンスだと、自然にそこの地域の人たちが集まって考えるし、考えが展開していくのではないか。「ほくっとネット」に協力するのではなく、問題提起をするくらいの勢いでかかわっても良いのではないか。

○B委員

公民館が主となって行う事業なので、事業名について再考していただきたい。定例会で出された各委員の意見を考慮して、進めていただきたい。

○A委員

他の委員がおっしゃっていたように、「ほくっとネット」が出てくることに唐突感を持つ方たちの中には、私たちが誘導するののかといった感覚を持つ人も出て来るだろう。「ほくっとネット」が大事なのであれば、違和感を感じさせないためにも、出し方を工夫しなければならない。ワールドカフェ形式も、交流できて面白かったという場合とヤラセのようになってしまう場合がある。公民館の講座で「ほくっとネット」が行っている内容をみんなで考えることは大事だと思うが、出し方は、工夫の余地があると思う。

○分館長(保谷駅前)

利用者懇談会での導入の仕方については検討したい。

○C委員

保谷駅前公民館の利用者懇談会は午後2時からなので、地域課題を考える講座が午後2時半開始となると、利用者懇談会がすぐに終了してしまう。

○B委員

構成的に厳しい。検討が必要だと思う。

○分館長(保谷駅前)

検討する。

○G委員

くらしを彩る講習会(谷戸)について、初めての方でも参加しやすいように楽しい企画になっている。また、カルチャーセンター等、民間の作品づくりの教室と比べると、参加費も低く抑えられている。広報が大切で、この講座のことが市民の方に伝わればと思う。内容が各回異なるが、申込は各回ごとか、全回通してか。継続して参加することで、人と人のつながりが生まれ、サークルの発足に結びつけばよいと思った。

○分館長(谷戸)

申込は、各回ごとに受け付ける。今後、継続して参加する講座も検討していきたい。また、各回ごとに行う広報に力を入れたい。

○A委員

私は、F委員とG委員の評価とは反対で違和感がある。小学生親子夕方講座(田無)、くらしを彩る講習会(谷戸)は、公民館の主催事業として行う意義は何か。どういう配慮があるのか。どういう見通しがあるのか。小学生親子夕方講座は、実施日時として平日の夕方は適切か。土日の開催ならば、父子で参加できると思う。公民館職員は、これまでの歴史とこの先をふまえて、企画してほしい。運営の仕方も違ってくる。

○分館長(田無)

公民館には、日常的に市民から団体・サークルの問合せがあり、将棋についても照会を受けるが、あいにく、現在、市内6館のどこにも将棋サークルはない。そこで、サークルの発足を意図して本講座を企画した。将棋を介して、親子のコミュニケーションを図るねらいもある。また、友達と個別のゲーム機器で遊ぶのではなく、対面でコミュニケーションをとりながら切磋琢磨していけるツールとして考えた。

○H委員

今回の講師は、日本にただ1組のプロ棋士の母子の母で、息子さんは有名な将棋のユーチューバー。参加者は多いと思う。

○分館長(谷戸)

くらしを彩る講習会(谷戸)は公民館利用のきっかけになればと考えている。

○事業係長

くらしを彩る講習会(谷戸)は、公民館に足を運んだことのない方にも参加していただけるように敷居の低い事業として企画している。担当者には、たった1回だけの参加であっても、公民館のことを知ってもらう機会、公民館利用のきっかけとなる機会にしたいという意図がある。各回ごとに、ものづくり等だけでなく、参加者同士で感想を共有する時間を設けるなどの運営を行う。

○B委員

事業計画書の目的・趣旨欄に、参加者の感想を共有すること等の趣旨が記載されていると理解の仕方が違ったと思う。

○A委員

小学生親子夕方講座(田無)について、事業計画書に「あらかじめ駒の動かし方を家庭で覚えてから参加してください。」と書かれている。駒の動かし方を知っている子どもが、有名なユーチューバーの講師に興味を持って参加するのだろうか、それでいいのかと思う。

○I委員

私も事業計画書のその記載について、疑問がある。申込者の中には、やってみたいけれど知らないから教わりたいと思う子どもたちもいるのではないかと。将棋に触れたい、将棋について知りたいと思う子どもたちが、今回の講座に参加できないのは残念ではある。

○分館長(田無)

将棋が好きで、将棋を楽しんでいる初心者の小学生親子に参加してほしいという講師の意向を反映させてもの。子どもの意思に関係なく、子どもに将棋をさせたいという保護者による申込や将棋が得意なスーパー小学生の申込を防ぎたいという意図がある。

○I委員

初級程度できる方という記載があれば、納得できると思う。

○A委員

人気があるのなら、やってみたいけれど知らないから教わりたいと思う子どもたちが参加してもよいのではないかと。

公民館主催事業で将棋を知らない人は参加できないのは、ありえないと思う。将棋の駒使いを知らない方は、改めて公民館まつりで開催します等どこかで公民館事業としてフォローしてあげないといけないと感じる。人気があるからそのようになるのなら運営上、工夫はしてもらいたい。将棋が得意な小学生が来ても対応できるように公民館としての配慮が必要。

○B委員

初心者から将棋が得意な小学生まで様々な参加者に対しての配慮をお願いしたい。

○E委員

初心者を対象としており、将棋の駒の使い方も知らない保護者もいると思う。「あらかじめ駒の動かし方は、家庭で覚えてから参加してください。」という一文は必要ないと思う。

○分館長（田無）

将棋の駒の動かし方を知らない人は参加ができない。との意味ではない。インターネットや本で将棋の駒の動かし方は調べられるので、実際の講座が始まるまでの間に、分からなければ親子で一緒に調べていただきたい。講座の目的が、将棋を親子のコミュニケーションツールとして位置づけているため、面白さや楽しさを知っていただいた上で参加していただければと考えている。「あらかじめ駒の動かし方を家庭で覚えてから参加してください。」という一文については、削除した形で表現したいと考えている。

○B委員

親子の状況などを把握しながら進めていただきたい。

### 3 報告事項

#### (1) 行政報告

○公民館長

教育委員会で、第2回西東京市議会定例会において公民館だよりに対する陳情が1件あり、不採択になったという報告を行った。教育委員の方からは、特に意見はなかった。

公民館だよりは多くの市民の方に読まれている。10月1日号は4面となるので期待していただきたい。

#### (2) 公民館だより編集室報告

- 担当委員より、8月7日開催の公民館だより編集室会議について報告。4面発行となる10月1日号一面特集についての検討等が行われた。

#### (3) 西東京市教育計画策定懇談会報告

- 担当委員より、7月24日開催の西東京市教育計画策定懇談会について報告

#### (4) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- 担当委員より、7月27日開催の東京都公民館連絡協議会第3回委員部会運営委員会について報告。第60回東京都公民館研究大会を令和6年2月3日（土）に開催。今年度の東京都公民館連絡協議会委員部会研修会「公民館運営審議会委員と市民のための入門研修」を10月14日（土）に開催。

### 4 事務連絡及び情報交換

#### (1) 令和5年度第1回利用者懇談会について

- 各館の利用者懇談会に参加する公運審委員を確認

#### (2) 公運審紹介紙について

- 公運審紹介紙の内容を確認

#### (3) 令和5年度第5回定例会の開催について

【日時】令和5年9月20日（水）午後6時30分

【場所】柳沢公民館 視聴覚室

#### (4) その他